ほんりゅう　尾北

No.300
2024・2

■発　行■
尾北教職員労働組合
■責任者■
小山晃範（楽田小）

尾北教労 HP

多様性を大切にする社会を

～2023年尾北の子どもと教育を考えるつどい～

12 月 17 日（日）江南市老人福祉センターで、尾北の子どもと教育を考えるつどいが開催され、「多様性を大切にする社会と教育を」と題して、日本福祉大学の伊藤修毅（なおき）さんによる講演が行われました。講演の要旨を紹介します。

多様性が前提の　インクルーシブ教育

2006 年、国連総会で障害者権利条約が採択され、日本は 2014 年に批准しました。2022 年９月、国連は日本に対して「インクルーシブ教育」を進める必要があると勧告しました。インクルーシブ教育は、単に同じ場にいればいいわけではありません。次の３つの目的、①人間の多様性の尊重②すべての子の発達の保障③効果的な社会参加が保障されることが大切です。

この条約を貫く理念は「他の者との平等を基礎として」ということ。条約に示された権利は、障害の有無にかかわらずすべての人に保障される権利として読んでいくべきものです。「障害者」であれ「健常者」であれ、みんな違う多様な一人ひとりの存在と考えることが「多様性の尊重」ということです。

全ての人に豊かな人生を　送る権利がある

障害者権利条約第 23 条では、「結婚をすること、家族を形成すること、親であること、恋愛関係をもつことについて障害者に対する差別を撤廃しなくてはならない」とあります。これは、障害者はもとよりすべての人に保障された権利です。この権利を行使するために「包括的セクシュアリティ教育」を学ぶことが必要であり、障害のある子ども・若者にも実施するよう勧告しています。つまり、すべての人にそれは必要ということです。

包括的セクシュアリティ教育とは

狭義の“性”教育だけでなく、人間の“セクシュアリティ”（性のあり方のこと）に関する幅広い内容を網羅する教育が「包括的セクシュアリティ教育」です。ユネスコが、すべての国で性教育を進める上で標準となる「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」(以下「ガイダンス」）を発表しました。「人間のセクシュアリティは多様性が基本である」と示されています。

誰もが学習から排除されないこと、セクシュアリティに対して肯定的であること、科学的に正確であることなどをふまえた人権やジェンダーに根差した「カリキュラム」です。８つのキーコンセプト（基本構想）を４つの年齢区分（５～８歳、９～12 歳、12～15 歳、15～18 歳以上）で繰り返し学んでいくよう示されています。以下に、多様性について、ガイダンスの５～８歳の学習内容から紹介します。

人間関係を学ぶ

「ガイダンス」第１のキーコンセプトは「人間関係」で、はじめに「家族」について「世界にはさまざまな家族の形がある」ことを学びます。そして「友情、愛情、恋愛関係」「寛容、包摂、尊重」「…親になること」と続きます。「すべての人間は個々に異なりそれぞれにすばらしく、社会に貢献できる存在であり、尊重される権利がある」と学びます。

それは、「みんなちがってみんないい」という基本的人権の学びです。人間も人間関係も多様なのですから。

性指向（Sexual Orientation）の多様性

「人間関係」の中には、好きになる性の学びがあります。「LGBT」という言葉のL、G、Bのことです。L＝レズビアン（女性の同性愛者）、G＝ゲイ（男性の同性愛者）、２つを合わせてホモセクシュアル、「同性愛者」といいます。Bはバイセクシュアル、「両性愛者」です。性指向とは、誰を好きになるかという分け方です。同性を好きになる人、どちらも好きになる人、誰にも恋愛感情をもたない人、性的感情をもたない人、好きになる性がわからない人などに分類されそれぞれ名前があります。多くの人に当てはまる「異性を好きになること」は自然のことと思われますが、ヘテロセクシュアル＝「異性愛者」と言います。異性愛者も他と同等の多様な性指向の一つです。

多様な性自認（Gender Identity）

「ガイダンス」３つ目のキーコンセプト「ジェンダーの理解」では、「ジェンダーに関係なくすべての人に平等の価値がある」ことを学びます。

「LGBT」のTのことです。T＝トランスジェンダーと言います。生まれた時に割り当てられた性（戸籍上の性別）と心の性（自分が女性と思うか男性と思うか）が一致していない人のことを言います。「性同一性障害」という言い方は、医療で自認する性の体に近づけたいと望む場合の診断名であり、医療を必要としない人もいます。「トランスジェンダー」も様々な人がいます。

割り当てられた性別と自認する性が一致している場合を、それが「当たり前」ではなく「シスジェンダーの男性、女性」と言います。多くの人は「シスジェンダー」です。数こそ違いますが「トランスジェンダー」と同等の性自認の一つです。

他に「ノンバイナリー」と言われる人もいます。そもそも自分を男性女性の枠組みに当てはめたくないと考える人で、歌手の宇多田ヒカルさんが「私はノンバイナリー」と言っています。

また、ミッツ・マングローブさんのように、割り当てられた性も自認する性も男性で一致していますが違う性の服装などで自分を表現する人をトランスベスタイト（異性装者）と言います。

多様な、性指向(SO)・性自認(GI)・性表現(E)を表す言葉としてSOGIEという言葉が使われるようになりました。SOGIEで表現することで、多数派のヘテロセクシュアルやシスジェンダーの人も多様な性の一つで、すべての人が同等であると分かります。

生物学的からだの性も多様

「ガイダンス」の６では「人間のからだと発達」について学習します。男女の身体について、人の性器は元々同じものから分化しますが、性分化の過程で何らかのトラブルが生じ、男女の体に当てはまらない状態（性分化疾患：DSDs）の人がいます。「生物学的には絶対に男性・女性に分けられる」ということは誤りであることが分かってきました。

ふれあいの大切さ

「ガイダンス」の７「セクシュアリティと性行動」では、「一生を通して、自分のからだや他者と親しい関係になることを楽しむことは、人として自然なことである」を学びます。

性被害が問題になると、「男女は１ｍ以上離れなさい」などと距離を取るよう指導することがあります。「不快なことをされた」とわかるためには、心地よい「快」がわかっていることが前提になります。小さいころからの心地よいふれあいをいっぱい経験することが大事です。人の体に触れる時は「同意」が必要なこと、「いや」と言っていいこと、「いや」と言われても怒らないことなどコミュニケーションの取り方を、遊びを通して学ぶことができます。

多様性と同調圧力の関係

多様性の対極にある考え方が同調圧力です。集団の中で孤立しないために、意に反して多数派の意見や行動に従わなければいけないという心理的な圧力です。自分の意見が言いづらかったり、違う意見が受け入れられずいじめにもつながったりします。多様性を尊重するということは、異なる意見や立場を大切にするということです。

伊藤修毅さんの講演を聞いて、私は「マイノリティはもう存在しない。だって多様性なんだから、みんな違ってみんないいのだ」と思いました。人の多様性は性の多様性だけではありません。私は、シスジェンダー女性でヘテロセクシュアル、息子が二人いる働く母、高血圧の疾患があり、左利き、日本に住む日本人で、無宗教者・・・と様々な属性があります。ある属性では多数派で、違う属性では少数派です。でも、私という人間は、二人と同じ人はいない多様性の中の一人です。多様性を学びすべての人が尊重されることで、誰もが自分らしく生きられる社会にしていくことができると思いました。（Y.T）